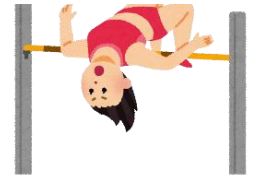


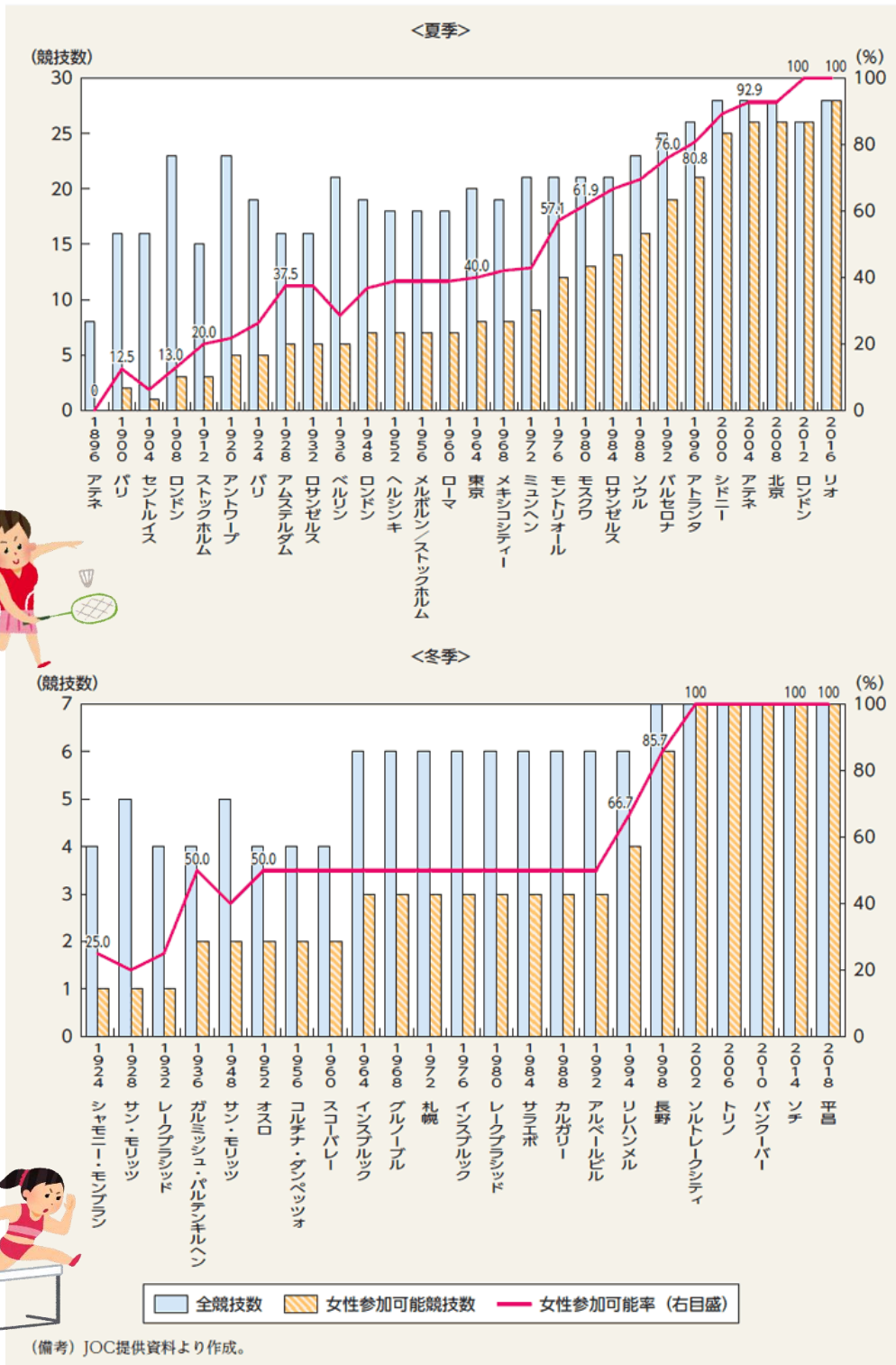
オリンピック競技大会における女性が参加可能な競技数



女性が参加可能な競技割合を見ると、夏季大会では、1976年モントリオール大会で初めて5割を超え、2012年ロンドン大会において、ボクシングが初めて女子種目に加わったことで、全競技で女性の参加が可能となりました。2012年ロンドン大会は、競技数の均等に加え、全参加国・地域から女子選手が派遣された記念すべき大会です。

冬季大会では、2002年ソルトレイクシティ大会で初めて、全競技で女性の参加が可能となりました。

オリンピック出場選手に占める女子選手の割合（世界）を見ると、夏季・冬季大会ともに増加しています。



オリンピック日本選手団に占める女子選手の割合を見ると、夏季大会では、2008年北京大会で49.9%、2012年ロンドン大会で53.2%、2016年リオ大会で48.5%と近年おおむね半数で推移しています。今年開催された東京大会では、48.8%となりました。冬季大会では、2014年ソチ大会で初めて5割を超え、2018年平昌^{ピョンチャン}大会では58.1%と過去最高となりました。

今年、開催された東京大会はメダルラッシュとなり、計58個のメダルを獲得しました。女子選手の活躍も目覚ましく、年齢問わず各競技で多くの感動的なシーンが生まれました。今後も女子選手が活躍でき、ともに多様性実現に向けたスポーツ環境を整えていく必要があります。